

読み札	絵札	解説
<p>栄枯の名残 城の鐘</p> <p>真田氏の</p>		<p>沼田公園の鐘楼の「鐘」は真田氏二代信吉が、寛永11年(1634)沼田で鑄造させたという。この鐘は天和元年(1681)真田氏改易後、西原新町平等寺に移され、明治31年(1898)頃から沼田町の時鐘となった。昭和39年(1964)市庁舎改築の際鐘楼は取り壊されたが、昭和58年(1983)沼田公園に復元された。</p> <p>なお、現在つかれている鐘は複製品。本物は、沼田市歴史資料館にある。</p> <p>昭和29年(1954)県指定重要文化財</p>
<p>十一面観音 まつる</p> <p>三光院</p>		<p>十一面観音像は柳町三光院にあり、檜材の寄木造りで六臂の立像、玉眼。総高186.5cm。墨書銘によると文永7年(1270)に彫像に着手、彫刻師は快覚、発願者は僧慶賢。伝承によれば、応永13年(1406)に群馬郡国分の村上出羽守に沼田氏の支城の川田・なぐるみりょうじょうりやくだつを略奪された沼田氏八代景朝は、兵を率いて村上を攻め亡ぼし、この観音像を持ち帰った。その後、真田信澄が観音堂を建て安置した。現在は三光院の収蔵庫に安置されている。</p> <p>昭和29年(1954)県指定重要文化財</p>
<p>茅の輪まつりに 大樫</p> <p>須賀神社</p>		<p>祭神は素戔鳴尊。江戸時代までは牛頭天王宮と呼ばれ親しまれた。9月1日の茅の輪まつりは初秋の風物詩である。「風土記」による蘇民将来の伝説から、茅の輪をくぐると、その年の災厄や疫病を免れるという。本殿裏の大樫は高さ25mに達し、市街地では珍しい巨木である。神殿の傍らに村上鬼城の句碑がある。</p> <p>「なつかしき沼田の里の茅の輪かな」</p> <p>須賀神社の大ケヤキは昭和29年(1954)県指定天然記念物</p>
<p>女子教育者 星野あい</p> <p>先覚の</p>		<p>星野あいは明治17年(1884)横浜に生まれた。父宗七は現戸鹿野町出身で、横浜で生糸貿易業を営んでいた。あいは生後まもなく沼田に帰り、沼田小学校に学んだ。兄光多の助けによって横浜のフェリス女学校、東京の女子英学塾を卒業し、アメリカに留学。帰国後母校津田塾の教師を勤め、戦後同塾を大学に昇格させ初代学長となった。一生を女子教育に捧げ、勲三等宝冠章を授けられ、昭和47年(1972)88歳で亡くなった。平成元年(1989)沼田市名誉市民に顕彰された。</p>
<p>発知の丘に 彼岸桜</p> <p>空霞む</p>		<p>中発知町慶福寺参道口、水田を見渡す高台にあり高さ15m、推定樹齢400年の彼岸桜である。開花が苗代作りの目安となるので「発知の苗代桜」として親しまれている。染井吉野桜より少し早目に丘の上に半円を描き、青空に広がって咲くさまは見事である。</p> <p>昭和32年(1957)県指定天然記念物</p>